

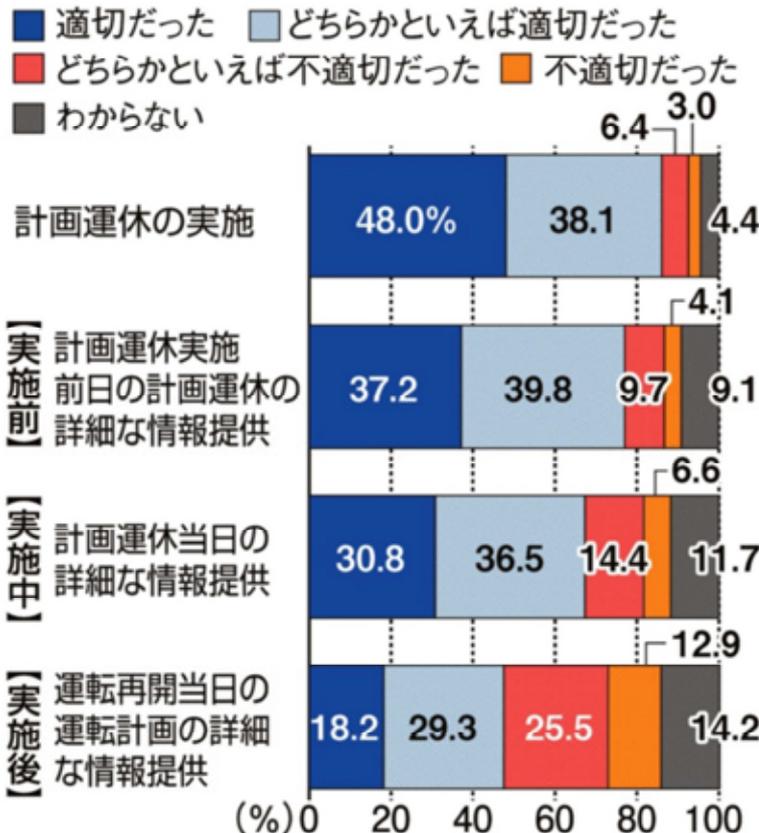
# 台風7号 新幹線の計画運休 86%が「適切」評価

台風7号の接近に伴い15日に東海道・山陽新幹線などで実施された「計画運休」を8割超が妥当と評価していることが21日、産経新聞グループのマーケティング会社「産経リサーチ&データ」が実施した意識調査で分かった。専門家、有効な災害対策として国民の理解が進んだとみている。ただ、運転再開後も混乱が続いた東海道新幹線の対応には課題も残した。

## 産経リサーチ&データ調査

トモモニターサイト「くらするーむ」の会員を対象に行われ、1657人から回答を得た。今回の計画運休の実施を48%が「適切」とし、「どちらかといえば適切」（38・1%）と合わせて86・1%が妥当と評価した。「非常に大事な安全対策」（東京都・40代男性）、「混乱を避けるためにも必要」（山梨県・40代男性）といった声が目立った。平成26年にJR西日本が計画運休を実施した際は結果的に台風の勢力が弱まったため

### 今回の計画運休は適切だったか



「空振り」に終わり、批判もあった。鉄道ジャーナリストの梅原淳氏は「列車が途中で立ち往生するのを避けるために計画運休を実施することが、国民にも浸透した結果だろう」と分析している。

一方、東海道新幹線は運転再開後も、2日間にわたって混乱が続いた。調査では、運転再開時の情報提供を「適切」「どちらかといえば適切」とした回答が合わせて4割近くに上った。